



- 本資料は、サノフィ(フランス、パリ)およびベーリンガーインゲルハイム(ドイツ、インゲルハイム)が2017年1月2日(現地時間)に発表したプレスリリースを日本語に翻訳・編集し、1月5日に配信するものです。本資料の正式言語はフランス語・英語であり、その内容および解釈については両言語が優先します。

サノフィとベーリンガーインゲルハイム、 2017年1月1日付で事業交換を実行

- 各社が医薬品市場のそれぞれの領域においてグローバルリーダーに -

2017年1月2日 パリ(フランス)、インゲルハイム(ドイツ) - サノフィとベーリンガーインゲルハイムは、2016年6月に契約締結したサノフィの動物用医薬品事業(メリアル)とベーリンガーインゲルハイムのコンシューマー・ヘルスケア(CHC)事業との戦略的事業交換の取引を2017年1月1日に大部分の国々において無事完了したことを確認しました。今回の取引の実行により、2015年12月から独占交渉を行ってきた事業交換が成功に至ったことを意味します。メキシコにおけるメリアルの取得、およびインドにおけるメリアルとCHC事業との交換については、一部当局の承認が得られていないため遅れているものの、いずれも2017年の早い時期に完了する見込みです。

サノフィ最高経営責任者(CEO)のオリヴィエ・ブランディクール(M.D.)は次のように述べています。「ベーリンガーインゲルハイムとの事業交換取引の実行を受け、サノフィは強力で革新的なCHCグローバルビジネスユニットを構築します。ベーリンガーインゲルハイムの高度に熟練したCHCチームとその定評ある製品群を統合することで、有望視されるCHC市場において、サノフィの戦略的カテゴリーの地位を高めることができます。この市場は、自らより良い健康管理を行いたいとの消費者の更なる要望に応えることが出来る市場です」。

ベーリンガーインゲルハイム取締役会会長のフベルトウス・フォン・バウムバッハはこう述べています。「この重要な成果は、両社がビジョンを共有して実現に至った互恵的な合意がもたらしたものです。顧客ニーズを満たしたいという思いを原動力とし、また両社の価値ある革新的な製品ポートフォリオをもって可能となった今回の事業交換により、ベーリンガーインゲルハイムにとって戦略的に重要である動物用医薬品領域の競争力がさらに高まります。メリアルの社員を私達のチームに迎え入れることに喜びを感じています」。

サノフィとベーリンガーインゲルハイムは、ここ数カ月間にわたり、取引実行日における各グループでの事業と社員の統合に向け入念に準備を行ってきました。顧客の利益と滞りない事業継続のため、両社は交換された事業の円滑な統合を最優先課題としています。

サノフィのコンシューマー・ヘルスケア担当エグゼクティブ・バイスプレジデントでエグゼクティブ・コミッティーの一員であるアラン・メインは、ベーリンガーインゲルハイムが展開していたCHCブランドを含むサノフィのCHC事業の成長路線を確実に維持しようとしています。ベーリンガーインゲルハイムの動物医薬品事業は、同社取締役会メンバーであるDr. ヨアヒム・ハーゼンマイヤーが率います。

サノフィについて

サノフィは、グローバル事業を統合的に展開するヘルスケアリーダーとして、患者さんのニーズにフォーカスした医療ソリューションの創出・研究開発・販売を行っています。5つのグローバルビジネスユニット(糖尿病および循環器領域、ジェネラルメディスンと新興市場、サノフィジェンザイム、サノフィパツール、コンシューマー・ヘルスケア)で組織され、パリ(EURONEXT:[SAN](#))およびニューヨーク(NYSE:[SNY](#))に上場しています。

ベーリンガーインゲルハイムについて

ベーリンガーインゲルハイムは、世界でトップ 20 の製薬企業の 1 つです。ドイツのインゲルハイムを本拠とし、世界で 145 の関連会社と約 50,000 人の社員が、事業を展開しています。1885 年の設立以来、株式公開をしない企業形態の特色を生かしながら、臨床的価値の高いヒト用医薬品および動物用医薬品の研究開発、製造、販売に注力してきました。

ベーリンガーインゲルハイムにとって、社会的責任は企業文化の重要な柱であり、その中にはグローバル規模のイニシアチブ「**Making More Health**(人々のより良い健康の実現を目指して)」などの社会的なプロジェクトへの関与や、社員への思いやりの精神などがあります。また、お互いに配慮し、平等な機会を提供し、業務やキャリアと家族生活との調和を重んじることは、相互協力の基盤となるものです。また、環境保護と持続可能な社会の実現に向けて注力しています。

2015 年度は 148 億ユーロ(約 1 兆 9,873 億円)の売上高を達成しました。革新的な医薬品を世に送り出すべく、売上の 20.3%相当額を研究開発に投資しました。

詳細については、<http://www.boehringer-ingelheim.jp/>をご覧ください。

サノフィ今後の見通しに関する記述

当プレスリリースには、1995 年民間有価証券訴訟改正法(修正を含む)でいう「今後の見通しに関する記述」が含まれています。今後の見通しに関する記述とは、歴史的事実を述べるものではない記述です。これらの記述には、計画と予測ならびにそれらの根拠となる前提、将来の財務結果、事象、事業、サービス、製品の開発および可能性に関する計画、目標、意向および期待に関する記述、ならびに、将来の実績に関する記述が含まれます。一般的に、今後の見通しに関する記述は、「予想」、「期待」、「見込み」、「予定」、「予測」、「計画」などの表現によって識別されます。サノフィの経営陣はそのような今後の見通しに関する記述に反映された予想を妥当と考えますが、投資家は今後の見通しに関する情報と記述がさまざまなリスクと不確実性の影響を受けやすく、それらの多くが予測困難であり、通常サノフィが制御できず、そのために実際の結果と進展が、今後の見通しに関する情報と記述の中で表現された、暗示された、または予測されたものとは実質的に異なる場合があることに注意してください。そのようなリスクと不確実性には、研究開発、市販後を含む今後の臨床データおよび解析、薬剤・機器・生物学的製剤などの製品候補について提出される申請の承認の是非および時期に関する FDA や EMA などの規制当局の決定、ならびにそのような製品候補の利用可能性や商業的可能性に影響を及ぼすラベリングその他の問題に関する当局の決定に付随する不確実性、製品候補が承認された場合に商業的に成功するという保証の欠如、代替治療薬の将来的な承認および商業的成功とグループが外部成長の機会から利益を得る可能性に付随する不確実性、為替レートと実勢金利のトレンド、コスト削減イニシアチブとその後の変更の影響、期中平均発行済み株式数、ならびにサノフィの 2015 年 12 月 31 日終了事業年度フォーム 20-F 年次報告書の「リスク要因」および「今後の見通しに関する記述」項目を含む、サノフィが作成した SEC および AMF に対する公の届け出の中で議論されているかまたは特定されているものが含まれます。サノフィは、適用法によって義務付けられている場合を除き、今後の見通しに関する情報または記述の更新または見直しを行う義務を負うものではありません。